

臨床医学特論2

科目到達目標:臨床医学において近年重要性が増している領域の基本知識を習得する。

科目責任者(所属教室):今村 武史(薬理学・薬物療法学) 連絡先:timamura@tottori-u.ac.jpまでメールください

回数	月日	時限	講義室	講義内容	担当者	分野・診療科	到達目標	講義のキーワード
漢方医学								
1	4/8(月)	3	121	現代医療における漢方の役割	三谷 和男	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	漢方医学の歴史を学び、現代医療における位置づけを理解する。	神農本草経、黄帝内経、傷寒論
2	4/11(木)	4	122	漢方医学の基本概念と診断法	柳原 茂人	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	漢方医学的基本概念を理解し、診断法を学ぶ。	陰陽、寒熱、表裏、気血水、五臓論、望診、聞診、切診、腹診
3	4/12(金)	4	121	実地臨床における漢方治療	井齋 偉矢	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	現代医療における治療薬としての漢方薬使用法を理解する。	漢方薬治療、サイエンス漢方、抗炎症作用
4	4/19(金)	4	121	和漢薬の薬理	上園 保仁	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	和漢薬の成り立ち、種類を学び代表的生薬・処方を理解する。	和漢薬、漢方薬、作用機序、処方の基本
5	4/24(水)	4	121	循環器内科医の考える漢方治療	北村 順	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	漢方をわかりやすい言葉で理解する	漢方薬、西洋医学との違い
緩和医療								
6	4/8(月)	4	121	緩和医療におけるチーム医療	八杉 明子	緩和ケア科	緩和ケアにおけるチーム医療、緩和ケア病棟、在宅医療、地域連携を理解する。	チーム医療、メディカルスタッフ、緩和ケア病棟、在宅医療
7	4/9(火)	3	122	緩和医療における疼痛管理	大槻 明広	麻酔科	オピオイドや鎮痛補助薬、NSAIDsの使用時期と使用法、副作用を理解する。	オピオイド、NSAIDs、鎮痛補助薬、神経ブロック
8	4/9(火)	4	122	緩和医療における精神症状管理	山梨 豪彦	精神科	癌患者特有の精神病理を理解し、患者との接し方や対話法を学ぶ。	精神腫瘍学、不眠、不安、抑うつ、せん妄、スピリチュアルペイン
9	4/12(金)	3	121	緩和医療の概念と歴史、症状管理	大山 賢治	がんセンター	緩和ケアの歴史と医師の役割、消化器・呼吸器症状等に対する治療を理解する	緩和ケア、嘔気、便秘、腹水、呼吸困難、胸水、腹水、全身倦怠感
臨床試験・治験								
10	4/10(水)	3	121	臨床試験・治験と薬効評価	遠藤 佑輔	新規医療研究推進センター	科学的臨床薬効評価法を理解する。臨床試験・治験の仕組みを理解する。	I～Ⅲ相試験、バイアス、プラセボ、ランダム化、DBT、医師主導、第Ⅳ相試験
11	4/10(水)	4	121	患者由来iPS細胞を用いた創薬展開	櫻井 英俊	薬理学・薬物療法学(非常勤講師)	疾患特異的なiPS細胞を用いた創薬手法ならびに倫理的問題について理解する。	臨床研究、ヒトiPS細胞、ドラッグリポジショニング、再生医療、生命倫理
12	4/11(木)	3	122	GCPとIRB	遠藤 佑輔	新規医療研究推進センター	日・米・欧3極共通のGCP、治験審査委員会について理解する。治験責任・分担医師・CRCの要件や役割を理解する	ICH、GCP、治験実施計画書、治験責任医師、CRC、科学的・倫理的妥当性
13	4/18(木)	3	122	医薬品開発と倫理	今村 武史	薬理学・薬物療法学	医薬品開発の意義を理解し、研究倫理の諸事項を理解する。	ヘルシンキ宣言、創薬・育薬、ヒト対象医学研究倫理指針
14	4/18(木)	4	122	非臨床と臨床試験・治験	今村 武史	薬理学・薬物療法学	医薬品開発における非臨床試験、非臨床から臨床試験への流れを理解する	非臨床試験、薬効薬理試験、一般薬理試験、毒性(安全性)試験、治験、
15	4/17(水)	4	121	臨床研究とそのデザイン	尾崎 米厚	環境予防医学	研究計画を立てるための基礎知識として、観察研究や介入研究について	観察研究、介入研究、症例報告、コホート研究、ランダム化比較試験、クロスオーバー試験、システマティックレビュー

教育グランドデザインとの関連:1、2、3、6、7

学位授与の方針との関連:1、2、4

評価:定期試験

授業のレベル:3(応用科目)

実務経験との関連:現役の医師あるいは薬剤師がその経験を活かし、各自の専門分野に関する講義を行う。

教科書:臨床薬理学、入門漢方医学など適宜紹介する。